

12月のHUGだより

情報提供者： やましろ小児科 山城 武夫

今月のテーマ

嘔吐（吐いた時）・対処の方法

嘔吐には①感染性の下痢症のような胃腸障害の時に見られるもの、②風邪や気管支炎などで、咳き込んだ時にみられる咳上げ、③器質的に消化管の通過障害の見られる嘔吐、④髄膜炎、脳炎などの感染症、脳腫瘍や頭部外傷による脳圧の上昇による嘔吐、⑤叱られた時のストレスによる心因性の嘔吐、⑥乳児期の前半にみられる胃の入り口である噴門の機能が未熟なため、体を動かすことによる逆流、等があります。

観察点は、腹痛や頭痛があるか、下痢をしていないか、発熱の有無、そして吐物の内容が食べ物だけか、血液が混入していないか、黄緑色の胆汁色をしていないか等を観察し、持参できるのであれば診察時に見てもらう。

こんな時はどうする

- 吐いたが食欲もあり、機嫌も良い。⇒ しばらく様子を見る。
- 吐き気が止まり、水分が取れる。⇒ しばらく様子を見る。
- 下痢、発熱などもなく、全身状態がよい。⇒ しばらく様子を見る。

- 何度も続けて吐く、顔色が悪い。⇒ 直ぐに受診する。
- 吐いたものに血液や胆汁（黄緑色）が混じっている。⇒ 直ぐに受診する。
- ひきつけを起こすか、意識がぼんやりしている時。⇒ 直ぐに受診する。
- 強い腹痛や頭痛がある時。⇒ 直ぐに受診する。
- 便に血液が混じっている。⇒ 直ぐに受診する。

様子を見る時の処置は

- 脱水の予防と嘔吐を誘発しないように、白湯、お番茶や補水液を少量ずつ、回数多く与えて行く。
（例えば10kgの子どもでは、1回5～10mlの水分を5分から10分毎に5～6回、嘔吐がなければ1回量を増やし時間の間隔を延ばす）。
- 食事はお粥、うどん、ポタージュ、ニンジン粥などから開始し、カレーや白身魚の煮付け等を控えめに与える。

手洗いはしっかりと

